

平成26年度 第4回宇都宮市行政改革大綱策定懇談会 会議記録

■ 日 時 平成26年11月11日（火）午後3時00分～4時40分

■ 場 所 宇都宮市役所本庁舎14大会議室

■ 出席者

1 委員

中村会長，遠井副会長，井原委員，大竹委員，岡地委員，金枝委員，川津委員，菊池委員，君島委員，斎藤委員，佐々木委員，菅谷委員，菅原委員，仲山委員，横尾委員，吉田委員（五十音順）

※ 欠席：荒木委員，稲野委員，目黒委員

2 事務局

行政経営部長，行政経営部次長，行政改革課長，財政課長，人事課長
行政改革課課長補佐，行政改革課係長，行政改革課担当者

■ 議 事

- 1 懇談会の意見等を踏まえた「（仮称）第5次行政改革大綱」の検討状況について（資料1）
- 2 「宇都宮市の行政改革に対する提言書」（案）について（資料2，別紙）

■ 会議経過

1 開会

2 会長あいさつ

- ・ 皆様，お忙しい中，お集まりいただき，誠にありがとうございます。
- ・ 本日の議題は，「（仮称）第5次行政改革大綱」のこれまでの検討状況の確認と，委員の皆様からの意見・提言を取りまとめた「宇都宮市の行政改革に対する提言書」（案）について，皆様からの御意見を頂くことの二つを考えている。
- ・ 特に二つ目の議題については，提言書の内容が新しい大綱の中身に直結する重要なものであり，これまで以上に活発な議論をお願いしたい。

3 議事

(1) 懇談会の意見等を踏まえた「(仮称)第5次行政改革大綱」の検討状況(骨子(案)) について

委員

- ・ 「基本的な考え方」の二つ目に、「市民と行政が共に理解・納得した上で」という表現があるが、「共に理解」するものが何なのかわかりにくいと感じる。

事務局

- ・ 行政改革の「課題認識」や「取組の方向性」などについて、市民の皆様にも理解・納得いただいた上で取組を推進する、という意味合いでまとめたところである。

委員

- ・ 「理解」は分かるが、全ての人に「納得」いただくことは難しいのではないかと。「納得した上」という表現になると非常に重たい言葉になってしまう。

事務局

- ・ 当懇談会からいただいた、「改革を進めていく上で、市民の方に納得・共感をいただくという努力を市は忘れてはならない」という提言を踏まえたところであるが、御指摘のとおり、市民の皆様全員が納得するというのは難しいところがあると思うので、表現については全体的に調整をさせていただきたい。

(2) 「宇都宮市の行政改革に対する提言書」(案)について

事務局

- ・ 本日、所用のために欠席された委員から、会議の開催に先立ちまして、事務局宛に御意見をお寄せいただいているところであり、この場を借りて紹介したい。

3ページ「(3)市民の納得・共感に向けた努力」について、「行政と市民との協働」という考え方を前面に出してもいいのではないかと

- うつのみやの自立的かつ持続的な発展のために、「多様な主体との交流・連携によるまちづくり」や「最適なサービスの確立」に取り組む過程では、行政も市民も現在の問題や今後の課題について認識し、ともに解決に向けて努力しなければならない。それゆえ行政と市民との協働関係を構築する必要がある。
- ただし、市民の積極的な参画の前提として、世代、性別、居住地域など様々な属性・背景をもつ市民が、十分な情報のもとで、納得・共感することが求められることから、市にはそのための努力が当然に求められる。

委員

- ・ 2ページの①について、「多角的・多面的なネットワーク」の『核』としての役割を市が担い」とあるが、市は必ずしも課題の解決に向けてネットワークのリーダーシップを取る必要はなく、ネットワークを鳥瞰的ちようかんてきに見て、団体同士を結び付ける調整役としての機能を担うという考え方もあるのではないか。

会長

- ・ 確かに「『ネットワーク』の『核』としての役割を市が担い」という表現だと、市が中心となり全ての課題を解決するというイメージを抱いてしまう。誤解を招かない表現に配慮すべきであろう。

委員

- ・ 「『ネットワーク』の『核』としての役割を市が担い」の後に、「それらの有効活用に取り組むことが必要である。」とあり、「核」としては存在するけれども、各団体を有効活用する「調整役」としての機能をもつという趣旨にも読めなくはないが、わかりやすい表現に変える必要があるだろう。

委員

- ・ 行政改革は市の内部の改革であるが、今後、人口減少社会が見込まれる中においては、広域的な視点を持つことが重要。周辺地域の中心たる宇都宮市が、他の自治体や市外の企業などの外部との関連性を強める取組姿勢を追記してはどうか。

委員

- ・ 1ページの二つ目の②のところに「都市間競争が激化する中」という表現がある。この表現に関連づけて記載してはどうか。

会長

- ・ 「行政改革大綱」ではなく、市のまちづくりの方向性を扱う「総合計画」で取り扱う内容とも取れなくはない。

委員

- ・ 4ページの③について、「様々な活動主体が有機的に連携し、相互に交流し合う『活気に満ちたネットワーク』を構築することが望まれる。」とあるが、すでに一部の地域においては、構築に向けて動き出しているところがあり、「構築する」ではなく「構築をサポートする」あるいは「更に推進する」という趣旨の表現が適切ではないか。

委員

- ・ ネットワークの構築が全体的に広がっているのならば「サポートする」でもいいと思うが、今はまだネットワークの構築が十分に進んでいるとは言いがたい状態であり、表現は「構築する」のままよいのではないかと感じる。

委 員

- ・ 3ページの「(3)市民の納得・共感に向けた努力」について、「努力」の後に「工夫」という表現を付け加えたらどうか。「努力」という表現は、主観的で評価が難しいイメージがあるが、「工夫」という表現を使えば、取組に対する客観性が増してくると感じる。

事務局

- ・ 「努力」という表現については、委員からの御指摘のあった、「工夫」を含めた形で、「汗をかいた成果として努力しなくてはならない」という意味合いで使わせていただいている。

委 員

- ・ 4ページの①「協働によるまちづくりの推進」について、ここだけ「住民ニーズ」という表現が使われているが、「市民ニーズ」と使い分けしている理由は何か。

事務局

- ・ 4ページの①「協働によるまちづくりの推進」のところでは「住民ニーズ」を使用し、④「公共施設のマネジメント」では「市民ニーズ」という言葉を使用している。前者は、地域の特色や独自性を意識して記載しており、後者は、市民全般としてのニーズとして使い分けたところである。
- ・ 懇談会が作る提言書であることから、事務局としては、委員の皆様の感覚に沿った表現で統一したいと考えている。

委 員

- ・ 資料1の「基本的な考え方」の一行目において「住民の福祉の増進」という表現がある。ここでの「住民」とは、どのような根拠で使い分けられているのか。

事務局

- ・ 地方自治法から引用したものである。

委 員

- ・ あくまで宇都宮市がつくる行政改革大綱なのだから、「地方自治法」に縛られる必要はないのではないか。

委 員

- ・ 宇都宮市民を対象とする政策としての行政改革であるならば、「市民」で統一するという考え方もある。

委 員

- ・ 地域ごとに歴史や特性が異なる中、「住民ニーズ」は「市民ニーズ」と意味が異なる言葉だと感じる。また「住民」という言葉が地方自治法で生きていることを考えると、あえて「住民」を「市民」に直す必要はないと感じる。

会 長

- ・ さまざまな御意見を頂いたところであるが、最終的に「住民」と「市民」どちらの表現で進めるのかについては、一旦、事務局に預けることにしたい。

委 員

- ・ 5ページの⑨「市政情報の発信」について、「立案・実行・評価」とあるが、PDCAサイクルでいう「PDC」しか取り上げられていない。一連のサイクルとして「A」の「改善」も入れたほうが良い。

委 員

- ・ 4ページの③「民間活力のさらなる活用」について、他の「求められる取組」に比べ、言葉が足りないように感じる。「雇用の創出」の前に、「新たな活力の発見や、協働と連携、支援により」という表現を追加すると、文章全体がわかりやすくなるのではないか。

委 員

- ・ 4ページの③については、「民間活力のさらなる活用」を積極的に推進すべきという内容であり、「雇用の創出」や「税収の増加」は、推進する効果として挙げられている例示である。今の言葉を追加するのは文脈上、難しいかもしれない。
- ・ 2ページ④について、最後の段で、「それらを通じて不断に最適なサービスを希求する」とあるが、「最適なサービス」というのは、時代によって変化するものなので、「最適」という表現を使う場合には注意が必要である。たとえば、「時代の変化に呼応した」という表現を追加するなど、時代時代で状況は変わり、その中で常に一番良い、その時の最適なサービスを求めていくとうことがわかる表現にするほうが良い。

副 会 長

- ・ 4, 5ページの「求められる取組について」であるが、それぞれの取組の内容が文章中のはじめにカギ括弧で表現されているが、項目名として取り出すほうがわかりやすいと感じる。
- ・ 5ページ⑦「職員の意識改革」について、「職員の資質・活力の更なる向上を期待したい」という表現だと、市が職員に期待しているという意味にも読める。また、「豊富な知識と戦略的思考に基づき」とあるが、市の職員はこれらの能力をあらかじめ持ち合わせているように読めてしまう。

委 員

- ・ 文章の主語が「市」であれば、市が職員に期待していると読めなくもないが、あくまでも提言書は我々がまとめるものであり、文章の主語は懇談会である。豊富な知識と戦略的な思考、資質・活力の更なる向上を我々委員は期待している、という

のが趣旨であろう。

会 長

- ・ 本日の皆様の御意見を踏まえて資料を修正し、近日中には提言書を完成させたい。
- ・ 提言書の完成後には、懇談会を代表して、私と副会長が市長に直接提出し、懇談会の委員の思いをしっかりと伝えてきたいと考えている。
- ・ 以上をもちまして、本日の議事の全てを終了する。
- ・ 委員の皆様の御協力で、滞りなく議事を進めることができた。感謝申し上げます。
- ・ 次回が最終回となるが、大綱の仕上げに繋がる有意義な議論を交わしたい。
- ・ 皆様お忙しい中ではあるが、次回の会議についても、ぜひ御出席いただくよう、お願い申し上げます。
- ・ 本日は、ありがとうございました。